

V 病害虫の防除方法

1 普通作物

1) 水稻

(1) 種子消毒

イ) 塩水選

対象病害	方 法	備 考														
ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病 その他	○比重液は、必ず比重計で調製する。 ○種籾と比重液との要領比は 1:2 以上とする。 ○食塩及び硫酸は、完全に溶かして使用する。 ○塩水選後は、水洗いを十分ににする。	○比重と食塩または硫酸の量は、およそ次のとおりであるが、必ず比重計で比重を調製する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">比 重 ():ホ-ム比重</th> <th colspan="2">水 100 当たりの量</th> </tr> <tr> <th>食 塩</th> <th>硫 酸</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち種</td> <td>1.13 (16.3)</td> <td>2.1 kg</td> <td>2.7 kg</td> </tr> <tr> <td>も ち種</td> <td>1.08 (10.6)</td> <td>1.2 kg</td> <td>1.5 kg</td> </tr> </tbody> </table>	種別	比 重 ():ホ-ム比重	水 100 当たりの量		食 塩	硫 酸	うるち種	1.13 (16.3)	2.1 kg	2.7 kg	も ち種	1.08 (10.6)	1.2 kg	1.5 kg
種別	比 重 ():ホ-ム比重	水 100 当たりの量														
		食 塩	硫 酸													
うるち種	1.13 (16.3)	2.1 kg	2.7 kg													
も ち種	1.08 (10.6)	1.2 kg	1.5 kg													

ロ) 温湯浸漬法

対象病害	方 法	備 考
ばか苗病 もみ枯細菌病 苗立枯細菌病 いもち病	○浸種前の乾燥種子を 60℃10 分間あるいは 63℃5 分間浸漬する。種子を取り出したら直ちに流水で冷却浸漬する。	○発芽障害を防ぐため、浸漬時間・温度を厳守する。 ○吸水した種子、穂発芽した種子については発芽障害を起こすおそれがあるので使用しない。 (「物理的防除法」の項参照)

(2) 耕種的防除法

病虫害名	防除時期	防 除 方 法
いもち病 (苗いもち)	播種前 育苗期 移植後	○抵抗性の強い品種を栽培する。 ○窒素肥料の多用を避ける。 ○播種時の覆土を十分に行い種籾が露出しないようにする。 ○伝染源になる稲わらなどを育苗施設から遠ざけ、育苗環境を清潔にする。 ○育苗日数を適正にする。 ○冷水の流入などがないようにする。 ○残苗及び補植用の苗には、5月下旬～6月上旬にかけて葉いもちが発生するのでそのまま放置せず、補植終了後にただちに処分する。
黄化萎縮病	育苗期 ～分けつ期	○苗代は、浸冠水しないところを選ぶ。 ○苗代で発病した苗は抜き取って焼き捨てる。 ○本田初期の発病がはなはだしい時は、抜き取って植え替える。
ごま葉枯病	播種期 ～移植前	○常発地は、客土や深耕をし、堆きゅう肥を増施する。 ○硫酸根肥料の施用を避け、肥切れしないように合理的に分施する。
白葉枯病	播種前	○苗代は浸冠水しないところを選ぶ。 ○窒素肥料の多用を避ける。
墨黒穂病	播種前 収穫期	○指定種子生産ほ産種子を使用する。 ○前年激発したほ場ではササニシキ以外の品種を作付する。 ○収穫前に発生状況を把握し、発生ほ場は刈り分けする。 ○適切な乾燥・調製に努める。
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	播種前 育苗期 移植期	○種籾は罹病苗移植田及びその周辺ほ場からは採種しない。 ○本田発病地を苗代としない。また、その土壌で育苗しない。 ○塩水選を徹底する。 ○標準育苗法を厳守し、特に出芽温度は 30℃以上にしな ○プール育苗で常時湛水状態に保てば、発病が抑制される。 ○発病苗は移植しない。

病虫害名	防除時期	防 除 方 法
苗立枯病	播種前 ～生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○育苗器具、資材施設は清潔にする。 ○種籾には傷籾を使用しない。 ○土壌酸度を矯正する。(pH5.0) ○厚播きを避ける。1箱当たりの用土量は50とする。 ○種籾が露出しないように、ていねいに覆土する。 ○出芽温度は適正にする。 ○育苗管理を適正にする(高温、低温、乾燥、過湿に注意する)。
ばか苗病	播種前 育苗期 ～本田中期	<ul style="list-style-type: none"> ○指定種子生産ほ産種子を使用する。 ○塩水選を確実に実施する。〔「塩水選」の項参照〕 ○発病苗株の早期抜き取りを徹底する。
紋枯病	播種前 移植期 穂ばらみ期	<ul style="list-style-type: none"> ○窒素肥料の多用を避ける。 ○代掻き後の浮遊物や残渣の除去。 ○防除要否の目安は穂ばらみ期の発病株率18%とする。(品種：ひとめぼれ、収量が5%以上の減収を想定して防除する場合)〔「病虫害の要防除水準」の項参照〕
縞葉枯病	生育中	<ul style="list-style-type: none"> ○発病株は早期に抜き取る。
アワヨトウ	—	<ul style="list-style-type: none"> ○洪水後の水たまりや最後に水の引いたところ、軟弱な生育の稲では、発生に注意する。
イネツトムシ	—	<ul style="list-style-type: none"> ○晩植、多肥、直播栽培の水稻に被害が多いので発生に注意する。
イネハモグリバエ	—	<ul style="list-style-type: none"> ○イネハモグリバエは、マコモ周辺に発生が多いので発生に注意する。
イネヒメハモグリバエ	—	<ul style="list-style-type: none"> ○早植田、深水田、直播栽培において、発生が多いので注意する。
斑点米カメムシ類	5月～6月 7月中旬 7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ○イヌホタルイやヒエ類等の水田雑草を除草する。 ○発生源となる雑草地、牧草地を刈り取る。 ○水田周辺の雑草を水稻の出穂10日前までに刈り取る。

(3) 農薬による病害虫の防除方法

【注意】農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

イ) 農薬による種子消毒作業順序

【もみ枯細菌病・苗立枯細菌病・ばか苗病・いもち病・ごま葉枯病の同時防除】

○粉衣消毒法（湿粉衣消毒）

塩水選→水洗→水切り→

・モミガードC水和剤 乾燥籾重の
0.5%

→ 風乾 → 浸種
(2日間)

○高濃度液短時間消毒法（10分間浸漬消毒）

塩水選→水洗→水切り→

・テクリードCフロアブル 20倍液

→ 風乾 → 浸種
(2日間)

○低濃度液長時間消毒法（24時間浸漬消毒）

塩水選→水洗→水切り→

・テクリードCフロアブル 200倍液
・モミガードC水和剤 200倍液

→ 風乾 → 浸種
(2日間)

○吹付消毒法

塩水選→水洗→水切り→

・テクリードCフロアブル 7.5倍液
(乾燥種子重1kg当たり希釈液30ml)
・モミガードC水和剤 7.5倍液
(乾燥種子重1kg当たり希釈液30ml)

→ 風乾 → 浸種
(2日間)

【もみ枯細菌病・苗立枯細菌病の同時防除】

○粉衣消毒法（湿粉衣消毒）

塩水選→水洗→水切り→

・スターナ水和剤 乾燥種子重の
0.5%

→ 風乾 → 浸種
(2日間)

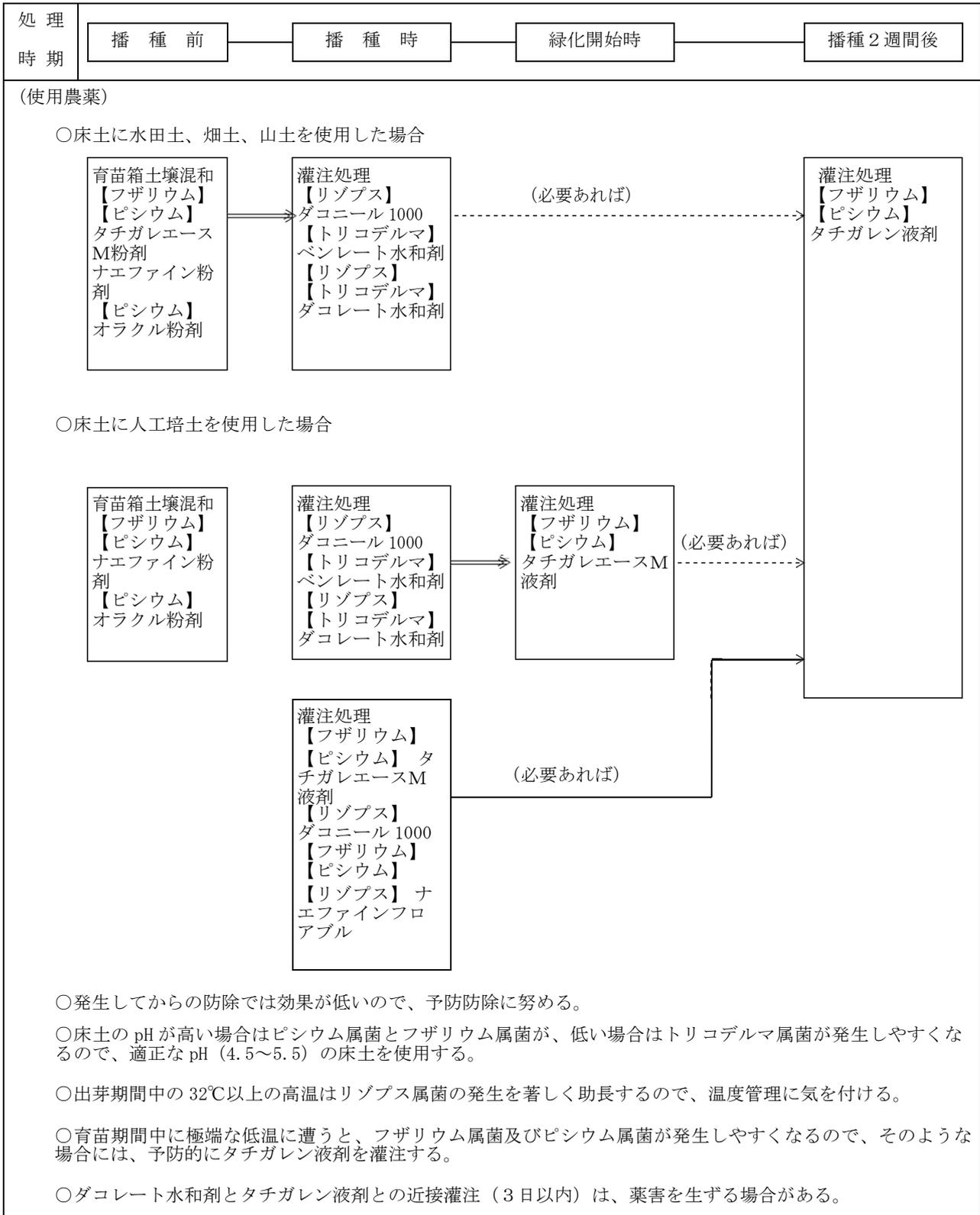
○低濃度液長時間消毒法（24時間浸漬消毒）

塩水選→水洗→水切り→

・スターナ水和剤 200倍

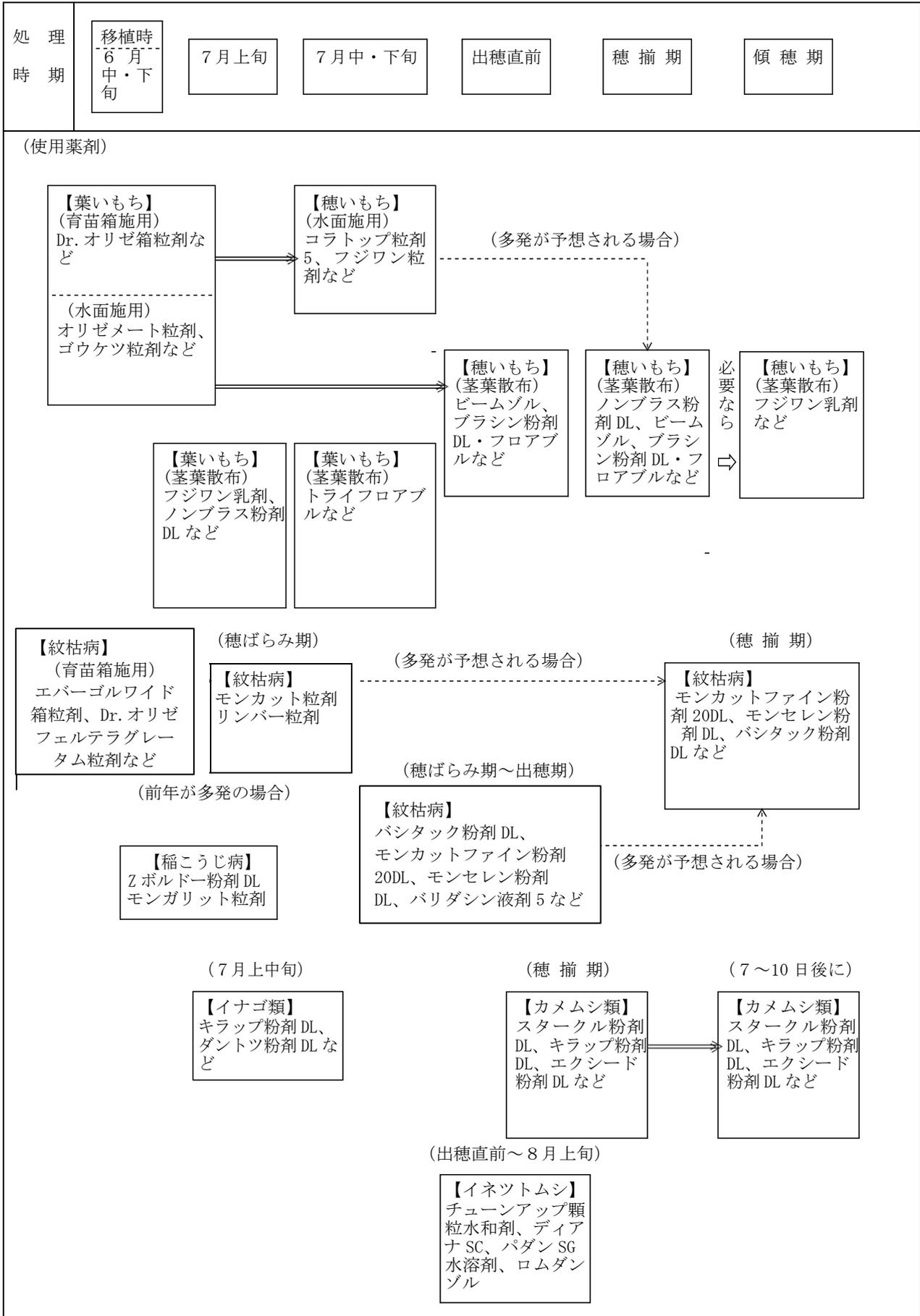
→ 風乾 → 浸種
(2日間)

ロ) 苗立枯病防除体系と主な薬剤



(4) 農薬による育苗期及び本田での防除方法

イ) 中期・後期病害虫防除体系と主な薬剤 (同一系統薬剤の連用・多数回散布は避ける)



○水稲（箱施用剤）

用途別	IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	紋枯病	イナゴ類	イネカラバエ	イネツトムシ	イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	フタオビコヤガ	備考												
殺虫殺菌剤					播種時覆土前～移植当日	1	○							○		○																	
	I:4A/F:P3	チアクロプリド／チアジニル	ブイゲットバリアード粒剤	50g/箱	移植10日前～移植当日	1	○							○		○																	
	I:28/F:16.1	シアントラニリプロール／ピロキロン	デジタルミネクト箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	1	○			○				○		○																	
	I:28/F:16.3	シアントラニリプロール／トルプロカルブ	ツインキック箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	1	○				○					○																	
					移植当日																												
	I:28/F:P2	クロラントラニリプロール／プロベナゾール	D r . オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期～移植当日	1	○						○	○			○				○												
					移植3日前～移植当日																												
	I:28/F:P2	クロラントラニリプロール／プロベナゾール	ファーストオリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	播種前（培土混和）	1	○								○			○				○											
					播種前（床土混和）																												
					播種時覆土前																			○			○	○		○			
I:28/F:P2	シアントラニリプロール／プロベナゾール	D r . オリゼパディート粒剤	50g/箱	移植当日	1	○			○				○			○																	
I:28/F:P2	シアントラニリプロール／プロベナゾール	ファーストオリゼパディート粒剤	50g/箱	播種時覆土前	1	○				○				○		○					○												
				播種前（床土混和）																													
I:28/F:P3	クロラントラニリプロール／チアジニル	アプライフェルテラ粒剤	50g/箱	播種前（床土混和）	1	○								○	○	○					○												
				播種時覆土前																			○			○	○						

○水稲（箱施用剤）

用途別	IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	紋枯病	イナゴ類	イネカラバエ	イネツトムシ	イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	フタオビコヤガ	備考			
殺虫殺菌剤	I:28/F:P3	クロラントラニプロール／チアジニル	ブイゲットフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期～移植当日	1	○							○		○				○				
					移植3日前～移植当日									○										
					移植当日										○									
	I:28/F:P3	シアントラニプロール／イソチアニル	スタウトパディート箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1	○	○	○		○			○		○	○				○			
					播種時覆土前			○	○															
					播種時覆土前～移植当日		○				○		○		○	○								○
	I:28/F:P3	シアントラニプロール／イソチアニル	ルーチンデュオ箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1	○	○	○		○			○		○	○				○			
					播種時覆土前			○	○															
播種時覆土前～移植当日					○					○		○		○	○								○	
I:28/F:P3	シアントラニプロール／イソチアニル	ルーチンパンチ箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1	○	○	○		○			○		○	○				○				
				播種時覆土前			○	○																
				播種時覆土前～移植当日		○				○		○		○	○								○	
I:28/F:P3	シアントラニプロール／チアジニル	ブイゲットパディート粒剤	50g/箱	緑化期～移植当日	1	○							○		○	○				○				
I:28/F:P3	テトラニプロール／イソチアニル	ヨーバルトップ箱粒剤	50g/箱	移植当日	1	○				○			○		○	○				○				
I:-/F:P2	フルピリミン／プロベナゾール	D r . オリゼリディア箱粒剤	kei	移植3日前～移植当日	1	○							○		○	○								

○水稲（箱施用剤）

用途別	IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	紋枯病	イナゴ類	イネカラバエ	イネツトムシ	イネドロオウムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	フタオビコヤガ	備考		
殺虫剤	I:1A	カルボスルファン	ガゼット粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	1								○	○	○	○	○	○	○	50gのみ記載		
	I:1A	ベンフラカルブ	オンコル粒剤5	50g/箱	移植3日前～移植当日	1								○	○	○	○	○	○	○	50gのみ記載		
	I:1A	ベンフラカルブ	グラントオンコル粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	1								○		○							
					移植当日						○												
	I:4A	ジノテフラン	アルバリン箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1								○		○							
					播種時覆土前～移植当日							○		○									
	I:4A	ジノテフラン	スタークル箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1								○		○							
					播種時覆土前～移植当日							○		○									
	I:14	カルタップ	パダン粒剤4	60～70g/箱	播種前（床土混和）又は移植当日	1								○	○	○	○				60～70gのみ記載		
	I:28	クロラントラニリプロール	フェルテラ箱粒剤	50g/箱	播種前（床土混和）	1								○	○		○				○		
播種時覆土前～移植当日											○	○		○								○	
移植当日																○							
I:28	シアントラニリプロール	バズ顆粒水和剤	1000倍、500mL/箱	播種時覆土前～移植当日	1								○		○					○			
			2000倍、1L/箱	播種時覆土前							○		○										
I:28	シアントラニリプロール	パディート箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1								○		○					○			
				播種時覆土前～移植当日							○		○									○	
				移植当日									○			○							
I:4A/I:5	イミダクロプリドノスピノサド	ガードナーフロアブル	100倍、500mL/箱	移植3日前～移植当日	1								○	○	○				○				

○水稲（箱施用剤）

用途別	IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	紋枯病	イナゴ類	イネカラバエ	イネツトムシ	イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	フタオビコヤガ	備考		
殺虫剤	I:4A/I:5	クロチアニジン／スピネトラム	ワンリードSP箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1								○	○	○				○			
					播種時覆土前～移植当日							○	○	○				○					
	I:28/I:9B	シアントラニリプロール／ピメトロジン	ミネクトスター顆粒水和剤	200倍、500mL/箱	移植3日前～移植当日	1								○		○							
殺虫殺菌剤	I:28/F:P3	シアントラニリプロール／イソチアニル	ミネクトプラスター顆粒水和剤	200倍、500mL/箱	移植当日	1	○							○		○							
				高密度には種する場合は50g/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5リットル）1箱あたり2.5～5g（希釈倍数100～200倍））、500ml/箱	移植10日前～移植当日	1	○										○		○				
	I:28/F:P8	シアントラニリプロール／ジクロベンチアゾクス	ブーンパディート箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1	○		○						○		○						
					播種時覆土前～移植当日	1	○		○				○		○								
					移植当日	1					○					○							○
	I:28/F:P3/F:7(C2)	テトラニリプロール／イソチアニル／ペンフルフェン	ヨーバルブライムEV箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1	○																
					播種時覆土前～移植当日	1	○		○			○	○	○									○
	I:4F/F:P2	フルピリミン／プロベナゾール	GPオリゼリディア箱粒剤	50g/箱	移植当日	1	○								○		○						
I:4F/F:P2/F:7(C2)	フルピリミン／プロベナゾール／ペンフルフェン	Cs.オリゼリディアEV箱粒剤	50g/箱	移植当日	1	○		○						○		○							
I:-/F:P8	オキサゾスルフィル／ジクロベンチアゾクス	ブーンアレスタ箱粒剤	50g/箱	移植当日	1	○					○	○	○		○	○							
I:28/F:P3/F:7(C2)	シアントラニリプロール／イソチアニル／ペンフルフェン	ミネクトフォルスターSC	100倍、500mL/箱	移植10日前～移植当日	1	○		○						○		○							
				高密度には種する場合は100ml/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5リットル）1箱あたり5～10ml（希釈倍数50～100倍））、500ml/箱	移植10日前～移植当日	1	○		○								○		○				

○水稲（箱施用剤）

用途別	IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	苗立枯細菌病	もみ枯細菌病	紋枯病	イナゴ類	イネカラバエ	イネツトムシ	イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	フタオビコヤガ	備考
	I-/F:P2	フルピリミン／プロベナゾール	Cs. オリゼリディア箱粒剤	50g/箱	移植3日前～移植当日	1	○							○		○					
	I:28/F:P2	シアントラニリプロール／プロベナゾール	Cs. オリゼパディート箱粒剤	50g/箱	緑化期～移植当日	1	○				○			○		○					
	I:28/F:P08	テトラニリプロール/ジクロベンチアゾクス	レシードプラス箱粒剤	50g/箱	播種前（床土又は覆土混和）	1	○														
				50g/箱	播種時覆土前～移植当日	1	○									○		○			
	I:-/ F:P3/F: 7(C2)	オキサズルフィル・イソチアニル・インピルフルキサム	スタウトアレスモンガレス箱粒剤	50g/箱	移植当日	1	○			○	○			○		○					
	I:-/ F:P3/F: 7(C2)	オキサズルフィル・イソチアニル・インピルフルキサム	稲大将箱粒剤	50g/箱	移植当日	1	○			○	○			○		○					

注1) IRAC/FRACコード欄の「I:」は殺虫剤のIRACコード, 「F:」は殺菌剤のFRACコードを示す。

注2) ヒメトビウンカ欄の①はウンカ類としての登録を示す。

注3) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので, 使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

○水稲（側条）

用途別	IRAC/FRACコード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	紋枯病	イネドロオイムシ	イネミズゾウムシ	備考
殺虫殺菌剤	I:4A/F:P3	クロチアニジン／イソチアニル	ツインターボ顆粒水和剤	100g/10a	移植時（ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。）	1	○		○	○	
	I:28/F:P2	クロラントラニプロール／プロベナゾール	D r. オリゼフェルテラ粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:P2	クロラントラニプロール／プロベナゾール	側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤	500g/10a	移植時（ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。）	1	○		○	○	
	I:28/F:16.1	シアントラニプロール／ピロキロン	デジタルミネクト箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:16.3	シアントラニプロール／トルプロカルブ	ツインキック箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:P2	シアントラニプロール／プロベナゾール	D r. オリゼパディート粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:-/F:P2	フルピリミン／プロベナゾール	D r. オリゼリディア箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:4A/F:P3/F:7	クロチアニジン／イソチアニル／フラメトピル	箱大臣粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○	○	○	○	
	I:28/F:7/F:P2	クロラントラニプロール／チフルザミド／プロベナゾール	D r. オリゼフェルテラグレートム粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:3/F:16.3	シアントラニプロール／シメコナゾール／トルプロカルブ	トリプルキック箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:P3	シアントラニプロール／イソチアニル	スタウトパディート箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:P3	シアントラニプロール／イソチアニル	ルーチンデュオ箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:P3	シアントラニプロール／イソチアニル	ルーチンパンチ箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:28/F:P8	シアントラニプロール／ジクロベンチアゾクス	ブーンパディート箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:-/F:P2/F:C2	フルピリミン／プロベナゾール／ペンフルフェン粒剤	C s. オリゼリディアE V箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:-/F:P2	フルピリミン／プロベナゾール	C s. オリゼリディア箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
	I:4F/F:P2	フルピリミン／プロベナゾール	G Pオリゼリディア箱粒剤	1kg/10a	移植時（側条施用）	1	○		○	○	
殺虫剤	I:14	カルタップ	パダンスG水溶剤	200g/10a	移植時（ペースト肥料に溶かし側条施肥田植機で施用する。）	1			○	○	希釈倍数使用量「200g/10a」を採用

注1) IRAC/FRACコード欄の「I:」は殺虫剤のIRACコード、「F:」は殺菌剤のFRACコードを示す。

注2) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

○水稲（直播栽培播種時同時施用）

用途別	IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数 ・使用量	使用時期	使用回数	いもち病	イネドロオイムシ	イネミズゾウムシ	備考
殺虫殺菌剤	I:28/F:P2	クロラントラニプロール/プロベナゾール	D r. オリゼフェルテラ粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:28/F:16.1	シアントラニプロール/ピロキロン	デジタルミネクト箱粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○		○	
	I:28/F:P3	シアントラニプロール/チアジニル	ブイゲットパディート粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:4A/I:5/F:P3	クロチアニジン/スピネトラム/イソチアニル	箱王子粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:4A/F:P3/F:7	クロチアニジン/イソチアニル/フラメトピル	箱大臣粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:28/F:7/F:P2	クロラントラニプロール/チフルザミド/プロベナゾール	D r. オリゼフェルテラグレータム粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:28/F:P2	シアントラニプロール/プロベナゾール	D r. オリゼパディート粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○		○	
	I:4F/F:P2	フルピリミン/プロベナゾール	D r. オリゼリディア箱粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:28/F:P8	シアントラニプロール/ジクロベンチアゾクス	ブーンパディート箱粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:4A/F:P3	クロチアニジン/イソチアニル	スタウトダントツ箱粒剤08	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○	○	○	
	I:4F/F:P2/F:7(C2)	フルピリミン/プロベナゾール/ペンフルフェン	C s. オリゼリディアE V箱粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○		○	
	I:4F/F:P2	フルピリミン/プロベナゾール	G Pオリゼリディア箱粒剤	1kg/10a	播種時（播種同時施薬機を用いて土中施用する。）	1	○			

注1) IRAC/FRACコード欄の「I:」は殺虫剤のIRACコード, 「F:」は殺菌剤のFRACコードを示す。

注2) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

○水稲（殺菌剤（箱施用剤を除く））

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	稲 こ う じ 病	い も ち 病	疑 似 紋 枯 症	ご ま 葉 枯 病 / 種 子 消 毒	穂 枯 れ / ご ま 葉 枯 病 菌	白 葉 枯 病	墨 黒 穂 病	苗 立 枯 細 菌 病	苗 立 枯 病	ば か 苗 病	も み 枯 細 菌 病	紋 枯 病	備 考	
32	ヒドロキシイソキサゾール	タチガレン粉剤	6g/箱	播種前（育苗箱土壌混和）	1									a				●「育苗箱土壌混和」希釈倍数使用量「6g/箱」を採用 ●「折衷苗代」希釈倍数使用量「50g/m ² 」を採用 ●「畑苗代」希釈倍数使用量「50g/m ² 」を採用	
			50g/m ²	播種前（折衷苗代）							a								
			50g/m ²	播種前（畑苗代）							a								
32	ヒドロキシイソキサゾールカリウム	タチガレン液剤	500～1000倍、500mL/箱	播種時又は発芽後	2									a					
31	オキシリニック酸	スターナ水和剤	乾燥種子重量の0.5%	浸種前（種子湿粉衣）	1								○				○		
			20倍	浸種後（10分間種子浸漬）							○			○					
			200倍	浸種前（24時間種子浸漬）							○			○					
1	ベノミル	ベンレート水和剤	500倍、500mL/箱	播種時1回又は播種時と播種7日後頃の2回	2									b					
20	ペンシクロン	モンセレン粉剤DL	3～4kg/10a	収穫21日前まで	4													○	
7	フルトラニル	モンカットファイン粉剤2ODL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	3 4													○	
7	フルトラニル	モンカット粒剤	3～4kg/10a（湛水散布）	出穂30～10日前 ただし、収穫14日前まで	3 4													○	
7	フルトラニル	モンカットフロアブル	ブームスプレーヤー 300倍、 25L/10a	収穫14日前まで	3 4													○	●「散布」（1000～1500倍採用）
			1000～1500倍																
7	フラメトピル	リンパー粒剤	3～4kg/10a	収穫30日前まで	2			①										○	
7	ペンフルフェン	エパーゴルシードFS	（乾田直播を除く）乾燥種もみ1kg 当たり原液10mlを塗抹処理（専 用の種子被覆剤を加用）	播種前	1			③										○	●「乾田直播水稲：塗抹処理（専 用の種子被覆剤を加用）」は、希 釈倍数・使用量「乾燥種もみ1kg当 たり原液10ml」を採用
			（乾田直播を除く）乾燥種もみ1kg 当たり原液10mlをコーティング 中又はコーティング後の種もみ に塗抹処理	播種前											○				
			（乾田直播のみ）乾燥種もみ1kg当 たり原液10mlを塗抹処理（専用 の種子被覆剤を加用）	播種前							③					○			

○水稲（殺菌剤（箱施用剤を除く））

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	稲 こ う じ 病	い も ち 病	疑 似 紋 枯 症	ご ま 葉 枯 病 / 種 子 消 毒	穂 枯 れ / ご ま 葉 枯 病 菌	白 葉 枯 病	墨 黒 穂 病	苗 立 枯 細 菌 病	苗 立 枯 病	ば か 苗 病	も み 枯 細 菌 病	紋 枯 病	備 考
U18	バリダマイシン	バリダシン液剤5	1000倍	収穫14日前まで	5												○	
U18	バリダマイシン	バリダシン粉剤DL	3~4kg/10a	収穫14日前まで	5												○	
U18	バリダマイシン	バリダシンエアー	無人ヘリコプター 8倍, 800mL/10a	収穫14日前まで	5												○	
M1	塩基性硫酸銅	Zボルドー粉剤DL	3~4kg/10a	出穂10日前まで	-	○												
M5	TPN	ダコニール1000	500倍, 500mL/箱	播種時~緑化期 ただし播種14日後まで	2									d				
			1000倍, 1L/箱										d					
32/4	ヒドロキシイソキサゾール/メタラキシルM	タチガレエースM液剤	500倍, 500mL/箱	播種時又は発芽後	1									a				
			1000倍, 1L/箱	播種時								a						
32/4	ヒドロキシイソキサゾール/メタラキシルM	タチガレエースM粉剤	6~8g/箱	播種前（育苗箱土壌混和）	1									a				
1/M5	ベノミル/TPN	ダコレート水和剤	500倍, 500mL/箱	播種時~緑化期 ただし播種14日後まで	2									e				
			1000倍, 1L/箱										e					
3/M1	イブコナゾール/水酸化第二銅	テクリードCフロアブル	20倍	浸種前（10分間種子浸漬）	1		○	○					○	e	○	○		
			200倍	浸種前（24時間種子浸漬）			○	○			○	e	○	○				
			7.5倍（使用量は乾燥種籾1kg当 たり希釈液30mL）	浸種前（種子吹き付け処理（種子消毒機使用） 又は塗沫処理）			○	○			○	e	○	○				

○水稲（殺菌剤（箱施用剤を除く））

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	稲こうじ病	いもち病	疑似紋枯症	ごま葉枯病／種子消毒	穂枯れ／ごま葉枯病菌	白葉枯病	墨黒穂病	苗立枯細菌病	苗立枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	紋枯病	備考	
16.1/U14	トリシクラゾール／フェリムゾン	ノンプラスフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2														
			ブームスプレイヤー 300倍, 25L/10a																
			無人ヘリコプター 8倍, 0.8L/10a																
16.1/U14	トリシクラゾール／フェリムゾン	ノンプラス粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	2		○		○										
U14/16.1	フェリムゾン／フサライド	ブラシフロアブル	1000倍, 60～150L/10a ブームスプレイヤー 300倍, 25L/10a	収穫7日前まで	2		○		○								○		
U14/16.1	フェリムゾン／フサライド	ブラシ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	2		○		○										
U18/U14 /16.1	バリダマイシン／フェリムゾン／フサライド	ブラシバリダ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	2		○		○									○	
M1/12/3	塩基性塩化銅／フルジオキシニル／ペフラゾエート	モミガードC水和剤	200倍	浸種前（24時間種子浸漬）	1														
			7.5倍（使用量は乾燥種籾1kg当 たり希釈液30mL）	浸種前（種子吹き付け処理（種子消毒機使用） 又は塗沫処理）															
			乾燥種籾重量の0.5%	浸種前（種子湿粉衣）															
M1/12/3	塩基性塩化銅／フルジオキシニル／ペフラゾエート	モミガードC・DF	200倍	浸種前（24時間種子浸漬）	1														
			7.5倍（使用量は乾燥種籾1kg当 たり希釈液30mL）	浸種前（種子吹き付け処理（種子消毒機使用） 又は塗沫処理）															
U14/16.1	フェリムゾン／フサライド	ブラシフロアブル	無人航空機 8倍 0.8L/10a	収穫7日前まで			○												

注1) ①は疑似紋枯症（赤色菌核病菌，褐色菌核病菌）での登録を示す。

注2) ②は疑似紋枯症（褐色紋枯病菌，赤色菌核病菌，灰色菌核病菌，褐色菌核病菌）での登録を示す。

注3) ③は疑似紋枯症（赤色菌核病菌，褐色菌核病菌，褐色紋枯病菌）での登録を示す。

注4) 苗立枯病 a: ピシウム・フザリウム, b: トリコデルマ, c: ピシウム, d: リゾプス, e: リゾプス・トリコデルマ, f: リゾプス・トリコデルマ・フザリウム

注5) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので，使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

○水稲（殺虫剤（箱施用剤を除く））

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	イナゴ類	イネツトムシ	イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ウンカ類	カメムシ類	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	備考
1B	MEP	スミチオン乳剤	2000倍	収穫21日前まで	2				○					○	希釈倍数使用量「2000倍」、使用方法「散布」のみ採用	
			2500倍						○					使用方法「散布」のみ採用		
			1000倍						○					使用方法「散布」のみ採用		
1B	MEP	スミチオン粉剤3DL	4kg/10a	収穫21日前まで	2①								○	希釈倍数使用量「4kg/10a」 ①ただし出穂前は1回		
1B	PAP	エルサン乳剤	2000倍	収穫7日前まで	2				○	○				○	希釈倍数使用量「2000倍」のみ採用	
			1000倍								○	○				
1B	PAP	エルサン粉剤2	3kg/10a	収穫7日前まで	2				○	○						
			4kg/10a							○	○					
1B	マラソン	マラソン乳剤	2000倍	収穫7日前まで	5								○	○		
2B	エチプロール	キラップフロアブル	2000倍	収穫14日前まで	2	○	○							○		
			1000～2000倍								○					
			無人ヘリコプター 8～16倍, 0.8L/10a								○					
			無人ヘリコプター 16倍, 0.8L/10a							○						
2B	エチプロール	キラップ微粒剤F	3～4kg/10a	収穫14日前まで	2	○	○					○				
2B	エチプロール	キラップ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	2	○	○					○				
3A	エトフェンブロックス	トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3								○			
3A	エトフェンブロックス	トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前まで	3	○									希釈倍数使用量「1000倍」のみ採用	
3A	エトフェンブロックス	トレボン粉剤DL	4kg/10a	収穫7日前まで	3	○							○	○	希釈倍数使用量「4kg/10a」のみ採用	
3A	エトフェンブロックス	トレボン粒剤	2kg/10a	収穫21日前まで	3		○			○					希釈倍数使用量「2kg/10a」のみ採用	
3A	エトフェンブロックス	なげこみトレボン	水溶性容器6個/10a	5葉期以降, 収穫21日前まで	3	○	○			○					希釈倍数使用量「水溶性容器6個/10a」のみ採用	
4A	クロチアニジン	ダントツH粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3		○									
4A	クロチアニジン	ダントツフロアブル	5000倍	収穫7日前まで	3	○										
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3		○								使用方法「散布」のみ採用	
4A	クロチアニジン	ダントツ粉剤DL	4kg/10a	収穫7日前まで	3	○										
			3kg/10a					○								
4A	ジノテフラン	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	3								○			
4A	ジノテフラン	アルバリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3	○	○						○			
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3		○						○			

○水稲（殺虫剤（箱施用剤を除く））

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	イナゴ類	イネツトムシ	イネドロオイムシ	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネミズゾウムシ	ウンカ類	カメムシ類	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	備考
4A	ジノテフラン	スタークル1キロH粒剤	1kg/10a	収穫7日前まで	3								○			使用方法「散布」のみ採用
4A	ジノテフラン	スタークルメイト1キロH粒剤	1kg/10a	収穫7日前まで	3								○			使用方法「散布」のみ採用
4A	ジノテフラン	スタークルメイト液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3								○			
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a								○					
4A	ジノテフラン	スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3								○			
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a								○					
4A	ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	3								○			
4A	ジノテフラン	スタークル粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3	○	○						○			
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3		○						○			
4F	フルピリミン	エミリアフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2		○				○					使用方法「散布」のみ採用
4C	スルホキサフロル	エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3	○						○	○	○		
			無人航空機 16倍, 0.8L/10a								○	○	○			
4C	スルホキサフロル	エクシード粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3							○	○			
5	スピネトラム	ディアナSC	4000~6000倍	収穫7日前まで	2	○									○	
11A	BT（生菌）	エスマルクDF	500~1000倍	発生初期, ただし収穫前日まで	-										○	
11A	BT（生菌）	チューンアップ顆粒水和剤	2000~4000倍	発生初期, ただし収穫前日まで	-	○									○	
			無人航空機 16倍, 0.8L/10a										○			
14	カルタップ	バダンSG水溶剤	1500倍	収穫21日前まで	6	○										
14	カルタップ	バダン粒剤4	3~4kg/10a	収穫30日前まで	6										○	
18	テブフェノジド	ロムダンゾル	1000倍	収穫21日前まで	2	○										
28	テトラニプロール	ヨーバルシードFS	乾燥種もみ1kgあたり原液10~11mLを塗抹処理	播種前	1		○	○		○	○					
28	クロラントラニプロール	ルミビアFS	乾燥種もみ1kgあたり原液4~7mLを塗抹処理	播種前（浸種前）	1		○			○						
			乾燥種もみ1kgあたり原液4~7mLをコーティング中またはコーティング後の種もみに塗抹処理	播種前（浸種後）			○		○							
1A/1B	BPMC/PAP	エルサンバッサ粉剤20DL	4kg/10a	収穫7日前まで	2								○			希釈倍数使用量「4kg/10a」のみ採用
3A/4A	エトフェンプロックス/ジノテフラン	スタートレボンW10	1000倍	収穫14日前まで	3								○			
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a								○					
4A	ジノテフラン/ヘンズピリモキサ	オーケストラスタークルエア	1000倍	収穫7日前まで	3							○	○			使用方法「散布」のみ採用

注1) ①: ただし出穂前は1回

注2) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので, 使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

2) 麦類

(1) 種子消毒

イ) 風呂湯浸法

病害虫名	防除時期	防 除 方 法
裸黒穂病	播種前	○風呂湯の温度を最初、小麦では46℃、大麦は42～44℃として、10～12時間浸漬する。 ○風呂湯が所定の温度になったとき、完全に火を消してから種子を浸漬する。浸漬中はふたを少しあけておき、温度が次第に下がるようにする。

ロ) 冷水温湯浸法

病害虫名	防除時期	防 除 方 法
裸黒穂病、 なまぐさ黒穂病、 雲形病(大麦)	播種前	○水に7～15時間浸漬後、50℃の温湯に数分浸漬して温めた後に、小麦54℃、大麦53℃湯に正確に5分間浸漬する。種子を取り出したら直ちに水で冷却後、すぐに播種す ○種子を水に浸漬する時間は、下記のとおりとする。 水温5℃のとき、15時間 水温10℃のとき、12時間 水温15℃のとき、7時間 ○発芽障害を防ぐため、温湯の温度と浸漬時間は厳守する。

(2) 耕種的防除法

病害虫名	防除時期	防 除 方 法
赤かび病	播種前 播種時 出穂後	○種子は、塩水選(比重小麦1.22、大麦1.13)を行う。 ○適期に播種をする。 ○抵抗性品種を用いる。 ○無発病ほ場から採種する。
うどんこ病	播種前 播種時	○窒素肥料を多用しない。 ○晩播を避け、厚播をしない。 ○抵抗性品種を用いる。
株腐病	播種前 播種時	○連作しない。 ○窒素肥料を多用せず、カリ肥料を十分施用する。 ○早播を避け、厚播をしない。
さび病	播種前 播種時	○窒素肥料を多用しない。 ○適期に播種する。 ○抵抗性品種を用いる。
立枯病	播種前 播種時	○連作しない。 ○発病地では、3年以上の輪作をする。 ○発病地は堆肥、肥料三要素を十分施用し、春に窒素・カリを追肥する。 ○麦稈を材料にした堆肥は、十分腐熟させてから使用する。 ○肥切れしないようにする。 ○早播を避け、播種を適期より10日ぐらい遅らせる。 ○厚播をしない。
縞萎縮病	播種前 播種時	○連作しない。 ○発病地では、3年以上の輪作をする。 ○肥料を十分に施用する。 ○深耕を行うことで発病を抑制できる。 ○抵抗性品種を用いる。
なまぐさ黒穂病	播種前 出穂後	○連作しない。 ○保菌畑では、晩播を避ける。 ○発病穂を早期に抜き取り処分する。 ○無発病ほ場から採種する。
裸黒穂病	出穂後	○発病穂を早期に抜き取り処分する。 ○無発病ほ場から採種する。
斑葉病 (大麦)	播種前 出穂後	○連作しない。 ○発病穂を早期に抜き取り処分する。 ○無発病ほ場から採種する。
雪腐病 (紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病)	播種前 播種時 越冬後	○リン酸肥料を十分施用する。 ○適期に播種する。 ○抵抗性品種を用いる。 ○春先の消雪を早め、排水を良くする。
バクガ	収穫後	○脱穀・調製を早めに行い、十分に乾燥する。

(3) 農薬による病害虫の防除方法

【注意】農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

イ) 病害虫防除体系と主な薬剤

播 種 前	根 雪 直 前	開花始期～乳熟期
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (なまぐさ黒穂病) (斑葉病) ベンレート T 水和剤 20 ホーマ イ水和剤 による種 子粉衣消毒 </div>	<p>(雪腐病が多い地帯)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> (雪腐小粒菌核病) バシタック水和剤 75 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> (赤かび病)^{※1} ストロビーフロアブル(11) トップジン M 粉剤 DL・水和剤・ゾル(1) シルバキュアフロアブル(3) チルト乳 剤 25(3)・ワークアップ粉剤 DL・フロア ブル(3)・ミラビスフロアブル </div>

※1：開花始期～開花期の防除は必須であるが、2回目以降は作付品種および開花始期以降の気象により調整する。耐性菌が発生する可能性があるため、同一グループの薬剤を複数回散布することは避ける。主な薬剤のFRACコードについては以下に示す（体系図では薬剤名の後にかっこ書きで示す）。

- (1) MBC 殺菌剤
- (3) DMI 殺菌剤
- (7) SDHI 殺菌剤
- (1 1) QoI 殺菌剤
- (M07) ビスグアニジン

			無人航空機 8倍, 0.8L/10a	根雪前	2									○	
				収穫7日前まで	3	○									
3	メトコナゾール	リベロ水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3	○	○		④						
			ブームスプレーヤー 500倍, 25L/10a	収穫7日前まで	3	○	○		④						
3	メトコナゾール	ワークアップフロアブル	2000~3000倍	収穫7日前まで	3	③									
			2000倍	収穫7日前まで	3		③		③④					③	
			無人航空機 10~24倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	3	③									
3	メトコナゾール	ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3	③	③		③④						
M3/1	チウラム/チオファネートメチル	ホーマイ水和剤	200倍	播種前 (6~24時間種子浸漬)	1						○	○			
			種子重量の0.5~1.0%	播種前 (種子粉衣)	1						○	○			
M3/1	チウラム/ベノミル	ベンレートT水和剤20	20倍	播種前 (10~20分間種子浸漬)	1						○	○			
			200倍	播種前 (6~24時間種子浸漬)	1						○	○			
			7.5倍 (乾燥種1kg当たり希釈液 30mL)	播種前 (種子消毒機を用いて吹き 付け処理)	1						○	○			
			乾燥種子重量の0.5%	播種前 (種子粉衣)	1						○	○			
M2, I:UN	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤	50~60倍	-	-	③									
			40~140倍	-	-		③		③						
7	ビジフルメトフェン	ミラビスフロアブル	1500~2000倍	収穫7日前まで	2	○			○						
			ブームスプレーヤー 250~500倍, 25L/10a	収穫7日前まで	2	○									
			無人航空機 8~16倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	2	○									

注1) ①ただし出穂期以降は2回以内, ②ただし出穂期以降は1回以内, ③麦類での登録, ④赤さび病での登録, ⑤紅色雪腐病での登録, ⑥麦での登録

注2) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので, 使用する際は農業の容器 (袋) のラベルを確認する。

○大麦（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用 回数	赤 か び 病	う ど ん こ 病	株 腐 病	さ び 病	な ま ぐ さ 黒 穂 病	斑 葉 病	雪 腐 病	雪 腐 小 粒 菌 核 病	備 考	
1	チオファネートメチル	トップジンMゾル	1500倍	収穫14日前まで	3①	②									
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a	収穫21日前まで	3①	②									
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	1000～2500倍	根雪前	3①							②			
			1000～2000倍	収穫30日前まで	3①		②								
			1000～1500倍	収穫30日前まで	3①	②									
1	チオファネートメチル	トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	3①	②									
7	メプロニル	バンタック水和剤75	750～1500倍	根雪前	2								③		
			1000～1500倍	収穫30日前まで	2				③						
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	2000～3000倍	収穫14日前まで	3	②	②		②④						
3	テブコナゾール	シルバキュアフロアブル	2000倍	収穫14日前まで	2	○	○								
			無人航空機 16倍, 0.8L/10a	収穫14日前まで	2	○	○								
3	プロピコナゾール	チルト乳剤25	2000～3000倍	収穫21日前まで	1		○								
			1000～2000倍	収穫21日前まで	1	○									
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a	収穫21日前まで	1	○									
3	メトコナゾール	リベロ水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3	②	②		②④					※使用方法「散布（ブームスプレーヤー）」がデータなし	
			ブームスプレーヤー 500倍, 25L/10a	収穫7日前まで	3	②	②		②④						
3	メトコナゾール	ワークアップフロアブル	2000～3000倍	収穫7日前まで	3	③									
			2000倍	収穫7日前まで	3		③		③④				③		
			無人航空機 10～24倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	3	③									
3	メトコナゾール	ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3	③	③		③④						
M3/1	チウラム／チオファネートメチル	ホーマイ水和剤	200倍	播種前（6～24時間種子浸漬）	1					②	②				
			種子重量の0.5～1.0%	播種前（種子粉衣）	1					②	②				

M3/1	チウラム/ベノミル	ベンレートT水和剤20	20倍	播種前（10～20分間種子浸漬）	1					②	②			
			200倍	播種前（6～24時間種子浸漬）	1					②	②			
			7.5倍（乾燥種籾1kg当たり希釈液30mL）	播種前（種子消毒機を用いて吹き付け処理）	1						②	②		
			乾燥種子重量の0.5%	播種前（種子粉衣）	1						②	②		
M2, I:UN	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤	50～60倍	-	-	③								
			40～140倍	-	-		③		③					
7	ビジフルメトフェン	ミラビスフロアブル	1500～2000倍	収穫14日前まで	2	○								
			無人航空機 8倍～16倍、0.8L/10a	収穫14日前まで	2	○								

注1) ①ただし出穂期以降1回以内, ②麦類（小麦を除く）での登録, ③麦類での登録, ④赤さび病での登録, ⑤麦での登録, ⑥紅色雪腐病での登録, ⑦紅色雪腐病及び雪腐大粒菌核病での登録

注2) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので, 使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

○小麦（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ワ ヨ ト ウ	ム ギ ダ ニ	備 考
1B	MEP	スミチオン乳剤	1000倍	収穫7日前まで	1	○	○		
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	1	○			
1B	PAP	エルサン粉剤2	3kg/10a	収穫7日前まで	4			○	
29	フロニカミド	ウララDF	4000倍	収穫7日前まで	2	○			

注1) ①麦類での登録

注2) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

○大麦（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	ア ブ ラ ム シ 類	ア ワ ヨ ト ウ	備 考
1B	MEP	スミチオン乳剤	1000倍	収穫7日前まで	1	○	○	
			無人航空機 8倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	1	○		

注1) ①麦類での登録

注2) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

3) だいず

(1) 耕種的防除法

病虫害名	防除時期	防 除 方 法
赤かび病	播種時 収穫時	○中生種～晩生種を用いる（極早生種は発病が多くなりやすい）。 ○収穫後の乾燥中にできるだけ雨にあてない。
ウイルス病 (モザイク病、 萎縮病など)	播種時 生育中 収穫時	○抵抗性品種を用いる。 ○病徴が現れた株は、早期に抜き取る。 ○健全株から採種する。褐斑粒を保毒しているため、採種しない。
立枯性病害（茎 疫病、黒根腐病	播種前 播種時 生育中	○連作をしない。 ○排水を良くする。 ○抵抗性品種を用いる。 ○被害株を早期に抜き取る。
紫 斑 病	播種時 収穫時	○抵抗性品種を用いる。 ○紫斑のない種子を用いる。 ○適期に刈取り、できるだけ早く乾燥させる。 ○収穫後の乾燥中にできるだけ雨にあてない。
白 絹 病	播種前	○連作をしない。 ○堆きゅう肥を多く施す。
べ と 病	播種前 播種時 収穫時	○連作をしない。抵抗性品種を用いる。 ○通風をよくするために、密植を避ける。 ○収穫後の落葉は焼却するか土中深く埋める。 ○跡地は深く耕して、表土を土中にすきこむ。
炭 疽 病	播種前 収穫時	○連作をしない。 ○収穫後の落葉は焼却するか土中深く埋める。 ○跡地は深く耕して、表土を土中にすきこむ。 ○無発病ほ場から採種する。
マメシンクイガ	播種前	○ 連作をしない。

(3) 農薬の使用法
○だいでず(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	茎 疫 病	黒 根 腐 病	紫 斑 病	べ と 病	炭 疽 病	備 考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	種子重量の0.5%	播種前(種子粉衣)	1			○			
			700~1500倍	収穫14日前まで	4			○			
1	チオファネートメチル	トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	4			○			
1	ベノミル	ベンレート水和剤	1000~2000倍	収穫前日まで	4			○			
			乾燥種子重量の0.5%	播種前(種子粉衣)	1		○				
21	シアゾファミド	ランマンフロアブル	1000~2000倍	収穫7日前まで	3	○			○		
			種子重量の1~2%(原液)	播種前(種子塗沫)	1	○					
3	ジフェノコナゾール	ブランドム乳剤25	3000~5000倍	開花後~収穫7日前まで	2			○			
			無人ヘリコプター 16~24倍、0.8L/10a	開花後~収穫7日前まで	2			○			
3	シメコナゾール	サンリット水和剤	1000~2000倍	収穫14日前まで	2			○			
M1	塩基性硫酸銅32	Zボルドー	500倍	-	-			○			
M3	チウラム	キヒゲン	乾燥種子重量の1%	播種前(種子粉衣)	1			○			
M3	チウラム	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子1kg当たり原液20mL	播種前(塗沫処理)	1			○			
10/1	ジェトフェンカルブ/チオファネートメチル	ゲッター水和剤	乾燥種子重量の0.5%	播種前(種子粉衣)	1			○			
			1000倍	収穫14日前まで	3			○			
10/1	ジェトフェンカルブ/ベノミル	ニマイバー水和剤	1000~2000倍	収穫14日前まで	4			○			
			無人航空機 8~16倍、0.8L/10a	収穫14日前まで	4			○			●無人航空機による散布を追加
27/11	シモキサニル/ファミキサドン	ホライズンドライフロアブル	2500倍	収穫7日前まで	3				○		
27/40	シモキサニル/ベンチアバリカルブ イソプロピル	ベトファイター顆粒水和剤	2000~3000倍	収穫7日前まで	2				○		
M1/-	硫酸銅/生石灰	4-8式ボルドー液	※区参考資料7を参照	-	-			○	○		
M3/1	チウラム/チオファネートメチル	ホーマイ水和剤	種子重量の0.5%	播種前(種子粉衣)	1			○			
M3/1	チウラム/ベノミル	ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.2~0.4%	播種前(種子粉衣)	1			○			
U16	テブフロキン	トライフロアブル	1000倍	収穫14日前まで	2			○			
			無人航空機8倍 0.8L/10a、16倍 1.6L/10a	収穫14日前まで	2			○			
M03	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤	400~600倍	収穫45日前まで	3			○			
			無人航空機 5倍、1.6L/10a	収穫45日前まで	3			○			
M03	マンゼブ	ベンコゼブ水和剤	400~600倍	収穫45日前まで	3			○			
53(B7)	ピリダクロメチル	フセキフロアブル	3000~4000倍	収穫前日まで	3			○			
			無人航空機 24~32倍、0.8L/10a	収穫前日まで	3			○			

注) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

○だいち（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	ア	ジ	ウ	オ	カ	コ	ダイ	タ	ツ	ネ	ハ	フ	マ	マ	備考
						プ	ヤ	コ	オ	メ	ガ	ズ	ネ	メ	キ	ダ	メ	メ		
3A	ペルメトリン	アディオN乳剤	3000倍	収穫7日前まで	3	②	○										○	○		
			無人航空機 24倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	3	②														○
4A	クロチアニジン	ダントツH粉剤DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3	②											○			
4A	クロチアニジン	ダントツフロアブル	2500~5000倍	収穫7日前まで	3	○	②										○			
			無人航空機 24倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	3	○			○											
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	3	○	②			○							○			・希釈倍数使用量「2000倍」を採用
4A	クロチアニジン	ダントツ粉剤DL	4kg/10a	収穫7日前まで	3	○	②													
4A	クロチアニジン	ダントツ粒剤	6kg/10a	播種時（播溝処理土壌混和）	1		②										○			
4A	ジノテフラン	スタークルメイト液剤10	1000倍	収穫7日前まで	2												○			・使用方法「散布」のみ採用
4A	ジノテフラン	スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	2												○			・使用方法「散布」のみ採用
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤	6kg/10a	播種時（播溝土壌混和）	1												○			
4A	チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤	3000倍	収穫7日前まで	2	○	②													
4A	チアメトキサム	クルーザーFS30	乾燥種子1kg当たり原液6mL	播種前（塗沫処理）	1	○	②						○	○			○			
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	2000~4000倍	収穫14日前まで	3												○	○		
11A	BT（生菌）	サブリーナフロアブル	500倍	発生初期（但し、収穫前日まで）	-				④											・豆類（種実）での登録
15	クロルフルアズロン	アタブロン乳剤	4000倍	収穫14日前まで	2				○											・使用方法「散布」の採用
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで	2			○	○					○				○		
			無人航空機 32倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	2				○					○					○	
22B	メタフルミゾン	アクセルフロアブル	1000倍	収穫前日まで	3												○			・希釈倍数使用量「1000倍」を採用
28	クロラントラニリプロール	ブレバソNFフロアブル5	4000倍	収穫7日前まで	2			○	○									○		
			無人航空機 16~32倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	2			○	○											○
28	シアントラニリプロール	ベネビアOD	2000倍	収穫7日前まで	3	○	②													
			2000~4000倍	収穫7日前まで	3														○	

○だいず（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	ア	ジ	ウ	オ	カ	コ	ダイ	タ	ツ	ネ	ハ	フ	マ	マ	備考	
						プ	ヤ	コ	オ	メ	ガ	ネ	ネ	ダ	タ	メ	メ	シ	シ		シ
28/15	シアントラニプロール/ ルフェヌロン	ミネクトエクストラSC	10000倍	収穫7日前まで	2													○			
			無人航空機 40~80倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	2															○	
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル	4000倍	収穫7日前まで	3				○	○				○							・希釈倍数使用量「4000倍」のみ採用
			無人航空機 16~32倍, 0.8L/10a	収穫7日前まで	3				○	○					○						
28	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3														○		
28	テトラニプロール	ヨーバルフロアブル	5000倍	収穫7日前まで	2				○										○		
			無人航空機 50倍, 1.6L/10a	収穫7日前まで	2				○											○	
29	フロニカミド	ウララDF	2000~4000倍	収穫7日前まで	2		②														
30	フルキサメタミド	グレーシア乳剤	2000倍	収穫14日前まで	2														○		・フタスジヒメハムシに限り希釈倍数使用量「2000倍」のみ採用
			2000~3000倍	収穫14日前まで	2				○	○											○
30	プロフラニリド	プロフレアSC	2000倍	収穫前日まで	3				○	○									○		
			無人航空機 16~32倍, 0.8~1.6L/10a	収穫前日まで	3				○	○											○
UN	ピリダリル	ブレオフロアブル	1000~2000倍	収穫7日前まで	2														○		・使用方法「散布」のみ採用 ・希釈倍数使用量「1000~2000倍」のみ採用
3A/1B	フェンバレレート/MEP	パーマチオン水和剤	1000倍	収穫21日前まで	3								○							○	
			1000~2000倍	収穫21日前まで	3						○										
3A/4A	エトフェンプロックス/ジ ノテフラン	トレボンスター粉剤DL	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2														○		

注) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

○だいでず（殺菌殺虫剤）

IRAC/FRAC コード	有効成分名	薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期・収穫前日数	使用 回数	茎 疫 病	黒 根 腐 病	紫 斑 病	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	ダ イ ズ サ ヤ タ マ バ エ	タ ネ バ エ	ネ キ リ ム シ 類	フ タ ス ジ ヒ メ ハ ム シ	マ メ シ ン ク イ ガ	備 考
I:1B/F:1	MEP/チオファネートメチル	スミトップM粉剤	3~4kg/10a	開花期~若莢期 (ただし収穫21日前まで)	4			○		○	○				○	
I:1B/F:M5	MEP/TPN	スミチオンダコニール粉剤DL	3~4kg/10a	収穫21日前まで	2			○		○					○	
I:4A/F:12 /F:4	チアメトキサム/フルジオキサニル /メタラキシルM	クルーザーMAXX	乾燥種子1kg当たり原液8mL	播種前（塗沫処理）	1	○	○	○	○			○	○	○		
I:3A/F:U16 (U)	エトフェンブロックス/テブフロキン	トライトレボン粉剤DL	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2			○		○					○	

注1) IRAC/FRACコード欄の「I:」は殺虫剤のIRACコード, 「F:」は殺菌剤のFRACコードを示す。

注2) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので, 使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。